

行政院國家科學委員會專題研究計畫 成果報告

有關日語變化表達句的自他交替與語義轉化現象之研究 研究成果報告(精簡版)

計畫類別：個別型
計畫編號：NSC 95-2411-H-004-031-
執行期間：95年08月01日至96年07月31日
執行單位：國立政治大學日本語文學系

計畫主持人：蘇文郎

計畫參與人員：此計畫無參與人員：無

處理方式：本計畫可公開查詢

中華民國 96年10月29日

二、報告内容

(1) 前言(研究背景與目的)

本研究主持人過去4年來持續針對日語變化表達句詳加探究，並前後相繼發表了10篇論文。在這一系的論文中探討的重點是將日語變化表達句依述語為自動詞或他動詞及所要求的補語（必要成分）的數量與種類細分為下列九種類型：

- i) X がV (變化自動詞)
- ii) X がY (名詞) に／と V (變化自動詞)
- iii) X がY (連用語) V (變化自動詞)
- iv) Y (補文) こと／よう／ということになる
- v) X がY を～化する
- vi) X がY をZ (名詞) にV (變化他動詞)
- vii) X がY 【補文】 ようにする
- viii) X がY をZ (連用語) にV (變化他動詞)
- ix) X がY をNV (名詞+動詞連用形) にする

再就每一類型的型態、句法結構和語義特徵深入加以分析，獲得相當具體豐富的成果。在這一系的研究當中，並發現了變化表達句中各種「態」（Voice:主動、被動、自發、可能）之間具有緊密的連續性和語義轉化現象，且兩者之間呈現複雜的對應關係。針對這一點，筆者已在蘇（2005），就變化自動詞「ナル」的多重語義結構，詳加闡述剖析。惟變化表達句中「態」的連續性和語義轉化並非「ナル」的特有現象，其他如下列的「動作名詞ニト ナル/スル」、「連用語ク/ニ スル」，結果語併入動詞句式的變化表達句中亦可發現下列4種不同態的交替及語義轉化現象。

A: 「能動變化」⇔「受動變化」

- 1、人型ロボットといってもガンダム…実用化しているが、いずれ近いうちにモバイル向け燃料電池も実用化されるだろう。/sephiebrain.jp/
- 2、…CD 屋さんに着いて、お目当てのCD を買えば、デジタル化された作品を手元に置けるようになった。手にするしかなかった。このように音楽の発信源がデジタル化しただけでは自体は急変しなかった。
/members.at.infoseek.co.jp/
- 3、<精製石棒>を第2類とし、第1類は頭部の形態で細分したほか、断面についても2分類している。…の区別は特別に言明されず、頭部の形態によって細分された。/www.jo.mongaku.net/
- 4、したがって、もし、それによって、賃金格差が縮小したとするならば、それは業者間協定の行政指導でよかったのです。…大企業の賃金格差が縮小したというのは制度として縮小されたのじゃなくて…。/kokkai.nd/go.jp/

B: 「自他交替」（他動變化⇔自動變化）

- 5、光と温度条件により、5齡期間を短縮する稚蚕期飼育法…法で飼育すると5齡期間が大幅に短縮する。/www.green.pref.tokushima.jp/
- 6、東京ガス都市生活研究所が1999年に行った「都市生活者意識行動観測」調査

では「総菜などを利用して、料理を簡便化することに抵抗ない」のは56%。
家庭での食事が簡便化している傾向がうかがえる。(2002、読売)

C: 「他動変化」⇔「自発変化」

7、良江は病み上がりの顔を蒼白にした。(「白い巨塔」)

8、柳原は体を硬くして答えた。(「白い巨塔」)

9、女はにっこりとりと笑った。左の頬に笑うくぼが刻まれ、表情を愛くるしくしている。(「日蝕」)

D: 「自動変化」⇔ { 「状況可能」
「自然可能」

10、「女の気持ち」「男のコラム」「文芸欄」などいずれの面も読者の声がたくさん反映されていて、とても親しみが持てる。勉強にもなる。(2000年、毎日新聞)

11、犯罪少年を強制的に排除するなどの方法だけでは再発防止になるとは思えない。(2000、毎日)

以上の4種自他交替「態」的轉換現象在先前研究中雖都曾提及，惟對「能動態」和「被動」「自發」「可能」的連續性和語義轉化現象產原理並未深入做整體性的探討。因此透過本研究，將上述多種變化表達句中的「態」相互間的連續性及語義轉換現象之原理進一步加以闡明。

(2) 研究方式

①採用的方法

本計劃以一年時間針對日語的下列三類型的變化表達句

i) 名詞ニ／ト ナル／スル

ii) 結果語併入動詞

iii) 動作名詞ニ ナル／スル

就其「能動」和「受動」、「自發」、「可能」之間的連續性導入認知語言學及語彙概念構造(Lexical Conceptual Structure: LCS)的觀點詳加剖析，並究明其語義轉化的原理。

②步驟

探討的重點依序為下列3種自他交替所伴隨的語義轉化。

i) 「能動」→「受動」

ii) 「他動」→「自發」

iii) 「能動」→「可能」

(3) 研究成果

本計劃分別以上述三個主題對日語變化表達句的自他交替與語義轉化現象產生的原理導入認知語言學及語彙概念結構的觀點進行了研究分析。此外，為了使探討的對象更具整體性，論述的範圍更具周延性，本計畫又追加了一個研究主題，即”日

語變化表達句中結果語「ニ」與「ト」的區別用法”。都獲得具體的結論與成果，並已將研究成果發表於如下刊物或研討會論文集。

- (1)「有關日語結果語併入之派生動詞及複合動詞的探討」(「日本語の結果語編入動詞をめぐって」)『政大日本研究』第三號 P.173~196 2006年1月
- (2)「日語變化表達句中結果語「ニ」與「ト」的區別用法」(「変化構文における結果語「ニ」と「ト」の使い分け」)『2006年台大日本語文創新國際學術研討會論文集』 P.83~94 2006年11月
- (3)「有關日語變化表達句的語義轉化現象之研究—以自發化與可能化爲中心—」(「変化構文における語義變化現象をめぐって—自発化と可能化を中心に—」)『2006年「日語教育與日本文化研究」國際學術會議論文集』 台灣日語教育學會主辦 P.197~205 2006年12月

(4) 研究成果自評

本計劃原設定的研究課題爲1) (漢語) 動作名詞ニ/ト ナル 2) (和語) 動作名詞ニ/ト ナル/スル 3) “～化する” 派生動詞 4) 結果語編入動詞等四種自他交替變化表達句中的(i)「能動→受動」(ii)「使役→自動」(iii)「他動→自發」(iv)「能動→可能」四種語義轉化現象詳加探究。唯時間的不足，本計劃將研究的內容稍加縮小調整，以利對所設定的主題能做更深入的詮釋與闡明。此次著墨不多的「使役→自動」的語義轉化現象則留做以後繼續研究的課題。

如前所述，筆者過去對有關日語變化表達句的研究，探討的主題皆以述語動詞及其所要求的補語(必要成分)的數量及種類爲中心，依變化動詞所具有的自他性、形態和語義特徵以及動詞所要求的結果補語，將變化表達句做次類劃分，並針對每種自他交替類型的句法結構、功能、語義特徵做詳細的分析。然針對變化表達句相互間「態」的變動及語義轉化現象，不管日本及國內，至今都未見到有系統且深入的探討。因此，本研究成果的學術意義及重要性自不待言。